

令和7年度全国学力・学習状況調査における萩市の結果について（概要）

萩市教育委員会学校教育課

1 調査の概要

（1）調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（2）実施期日

令和7年4月17日（木）

（3）調査を実施した学校数・児童生徒数

学年	学校数	児童生徒数
小学校第6学年	16校	253名
中学校第3学年	13校	254名

※ 弥富小、鈴野川小、相島小中は休校中。

※ 三見小は対象児童なし

（4）調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- イ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

- ア 児童生徒に対する調査（児童生徒質問）
- イ 学校に対する調査（学校質問）

* 調査問題の詳細は、国立教育政策研究所の「令和7年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について」（URL <https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>）で閲覧することができます。

2 教科に関する結果

（1）全体の結果

- 【県平均に対して】小学校は、国語・算数ともに県平均を下回り、理科は上回った。中学校は、国語・数学ともに、県平均と同等であり、理科は下回った。
- 【全国平均に対して】小学校は、国語は全国平均と同等、算数は下回った。理科は、上回った。中学校は、国語は全国平均を上回り、数学は下回った。理科は下回った。

（2）教科ごとの結果

小学校				中学校			
区分	平均正答率（％）			区分	平均正答率（％）		
	萩市	山口県	全国		萩市	山口県	全国
国語	67	68	66.8	国語	55	55	54.3
算数	57	58	58	数学	48	48	48.3
理科	59	58	57.1	理科	2.7／6	2.9／6	2.9／6
					*482	*503	*503

* 中学校理科はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示している。

(3) 各教科に見られる成果と課題

(○：相当数の児童生徒ができている点 △：課題がみられる点)

※ () 内は、萩市内児童生徒の正答率 ※ゴシックは特に課題が見られる点

【小学校国語】

○図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること (86.2%)

○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと (81%)

○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと (79.8%)

△事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること (50.2%)

△目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること (36.8%)

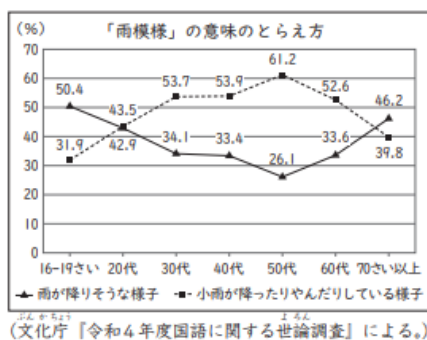
【事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること】に関する問題

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、「資料1」を読み返しています。次の「話し合いの様子」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

ばくが読んだ二つの資料(「資料2」、「資料3」)には、言葉が変化していることが書かれていたよ。「資料1」に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながっているよ。

【資料4】



私は、この資料(「資料4」)を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとりえ方にちがいがいることが分かるでしょ。

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

言葉の変化については、いろいろな考え方があるんだね。もう一度「資料1」を読み返して、言葉の変化について自分が一番なっとくしたことをまとめよう。

木村さん

田中さん

木村さん

田中さん

木村さん

(1) 【話し合いの様子】の A に当てはまる内容として最も適切なものを選んで、その番号を書きましょう。

- 1 【資料1】の 部①
- 2 【資料1】の 部②
- 3 【資料1】の 部③
- 4 【資料1】の 部④

【解答】

3

【小学校算数】

- 異分母の分数の加法の計算をすること（86.2%）
- 伴って変わる二つの数量の変化の二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと（83%）
- 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し計算すること（75.9%）

△分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること（21, 3%）

△目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること（32.8%）

△「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと（33.6%）

△基本図形に分割できる図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述すること（34%）

【分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること】に関する問題



ひろと

$\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{4}$ の 3 個分、 $\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{3}$ の 2 個分です。

もとにする数が $\frac{1}{4}$ と $\frac{1}{3}$ でちがうので、同じ数にしたいです。

$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ についても、もとにする数を同じ数にして考えることができます。

もとにする数を同じ数にするとき、その数は何になりますか。その数を書きましょう。また、 $\frac{3}{4}$ はその数の何個分、 $\frac{2}{3}$ はその数の何個分ですか。数や言葉を使って書きましょう。

【解答】

$\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ のもとにする数を同じ数にするとき、その数は $\frac{1}{12}$ になります。 $\frac{3}{4}$ は $\frac{1}{12}$ の 9 個分、

$\frac{2}{3}$ は $\frac{1}{12}$ の 8 個分です。

【小学校理科】

- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験方法を発想し、表現すること（81%）
- 赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現すること（81%）
- へちまの花のつくりや受粉についての知識（77.9%）

△身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識（8.3%）

△レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること（34.8%）

△顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能（43.9%）

【身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識】に関する問題

(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の **1** から **4** までの中からそれぞれ1つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1** 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2** 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3** 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4** 電気を通さず、磁石に引きつけられない。

【解答】

アルミニウム	2
鉄	1
銅	2

【レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること】に関する問題

水、空気、温度のほかにも、レタスの種子が発芽するために、必要な条件があるのかもしれない。レタスの種子が発芽するために必要な条件を、上の〈条件〉の中から1つ選んで調べてみたい。



てるみ

(4) てるみさんは、調べてみたいことをもとに、新たな【問題】を見つけました。てるみさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

【解答】

(例) レタスの種子が発芽するのに、日光は必要なのだろうか。

【中学校国語】

- 文章全体と部分との関係に注意しながら登場人物の設定の仕方を捉えること（93.7%）
- 表現の効果について、根拠を明確にして考えること（82.7%）
- 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること（80.7%）

△文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること（17.3%）

- △資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること（23.6%）

【文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること】に関する問題

四

「――で囲まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「一 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--	--	--	--	--	--

【解答】

（例）読者の意表を突く効果がある。なぜなら、「一 榎木の実」には、失敗した兄弟が、お爺さんのおかげで成功する場面が書かれているため、「二 釣の話」も同じような展開になると予想して読み進める読者が多いと思うからだ。

【中学校数学】

- 必ず起こる事柄の確率についての理解 (79.5%)
- 事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ること (68.9%)
- 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること (60.2%)

△素数の意味を理解していること (19.3%)

△式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること (25.6%)

【素数の意味を理解していること】に関する問題

- 1 下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

【解答】

2、3、5、7

【式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること】に関する問題

- (2) 連続する2つの3の倍数の和は、9の倍数になるとは限らないことに気づいた二人は、連続する2つの3の倍数の和がどんな数になるかを調べることにしました。

そこで、二人は、 n を整数として、連続する2つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ と表してそれらの和を計算し、それぞれ次のように式を変形しました。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

結菜さんの式の変形の $3(2n + 1)$ から、「連続する2つの3の倍数の和は、3の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の $2(3n + 1) + 1$ から、連続する2つの3の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「 は、……である。」という形で書きなさい。

【解答】

(例) 連続する2つの3の倍数の和は、奇数である。

3 児童生徒質問の結果

◎「萩市ひとづくり推進計画」における成果指標に関わる質問項目を抜粋

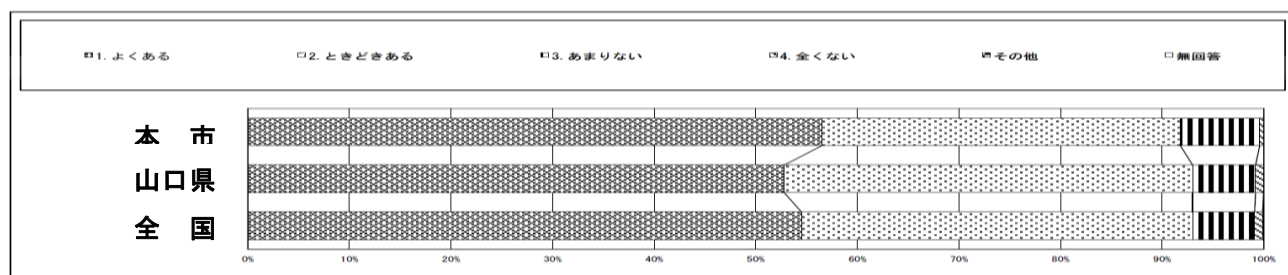
● 萩市として課題がある内容の質問項目を抜粋

◎子どもたちの意識について

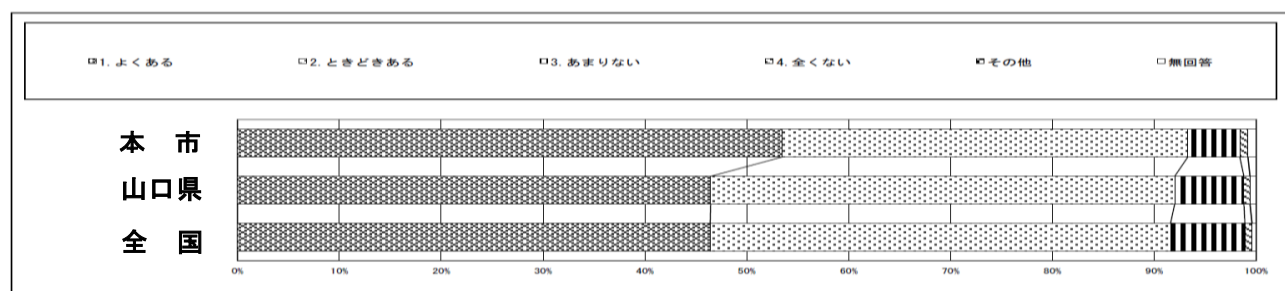
普段の生活の中で幸せな気持ちになる子ども、人の役に立ちたいと思っている子ども、将来の夢や目標をもっている子どもの割合は、特に中学生が県や全国と比べて高い。

質問：普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

【小学校】

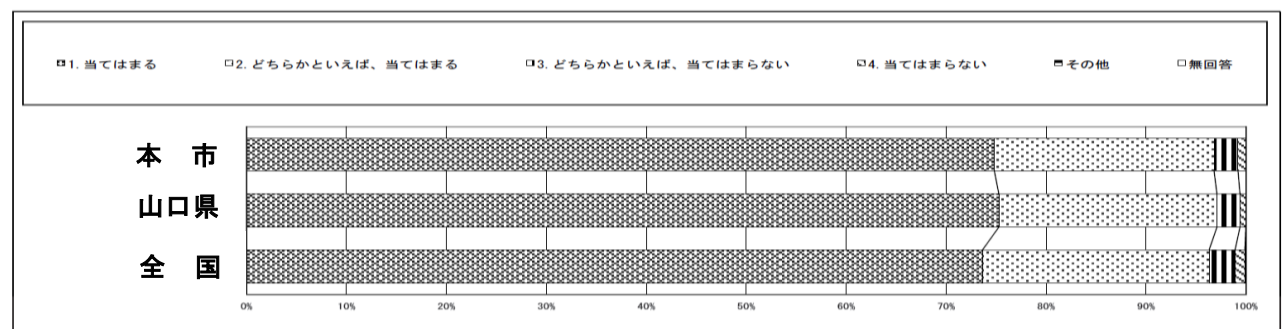


【中学校】

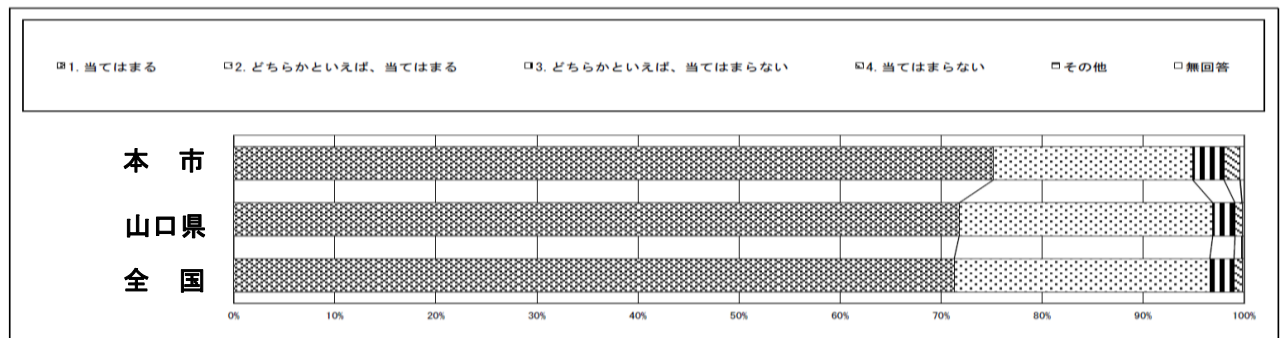


質問：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

【小学校】

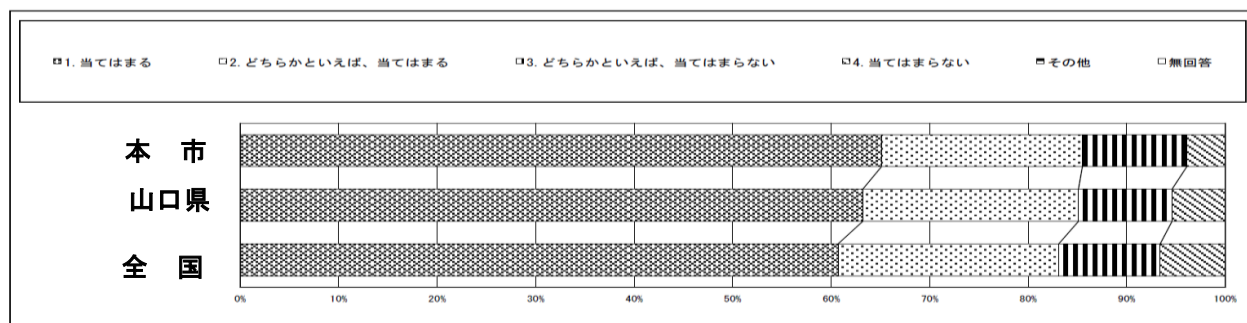


【中学校】

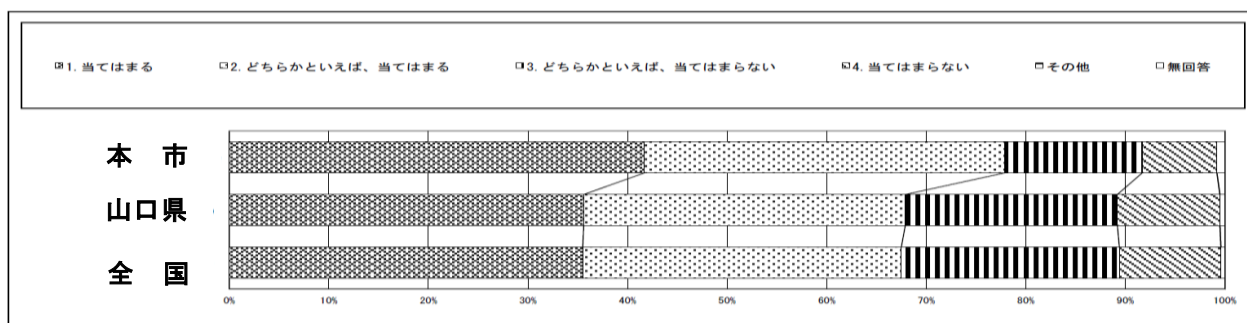


質問：将来の夢や目標をもっていますか。

【小学校】



【中学校】

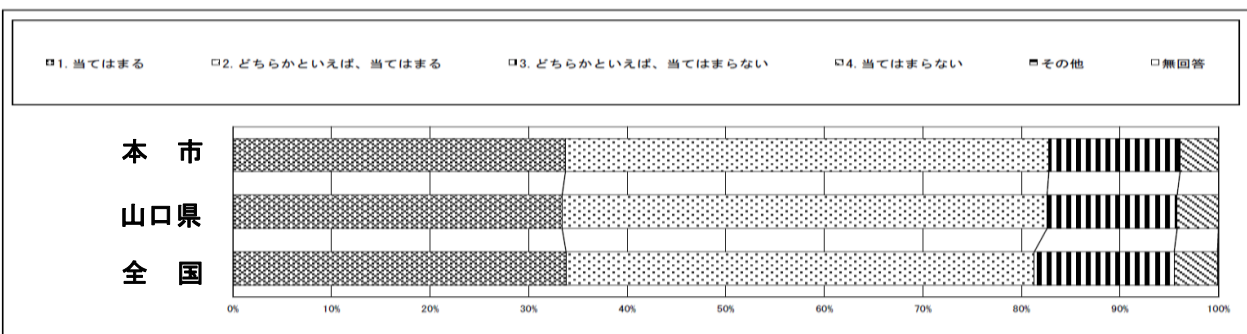


◎地域との関わりについて

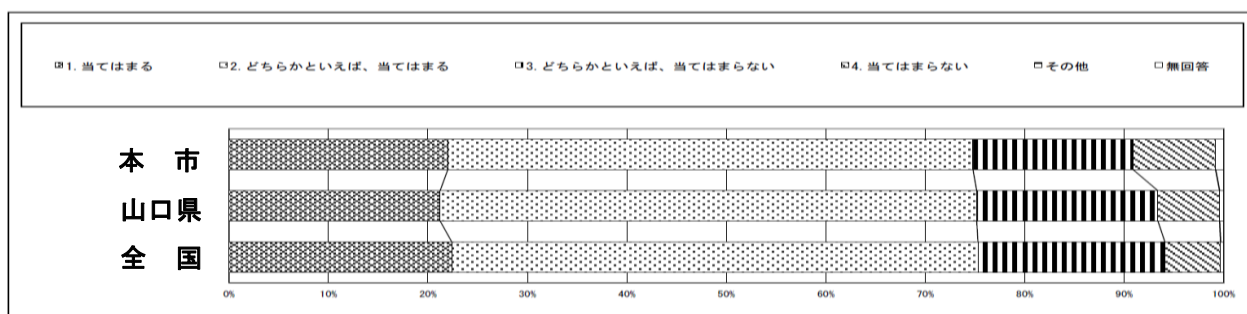
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている子どもの割合は、小・中学生ともに、県や全国と同程度である。

質問：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

【小学校】



【中学校】

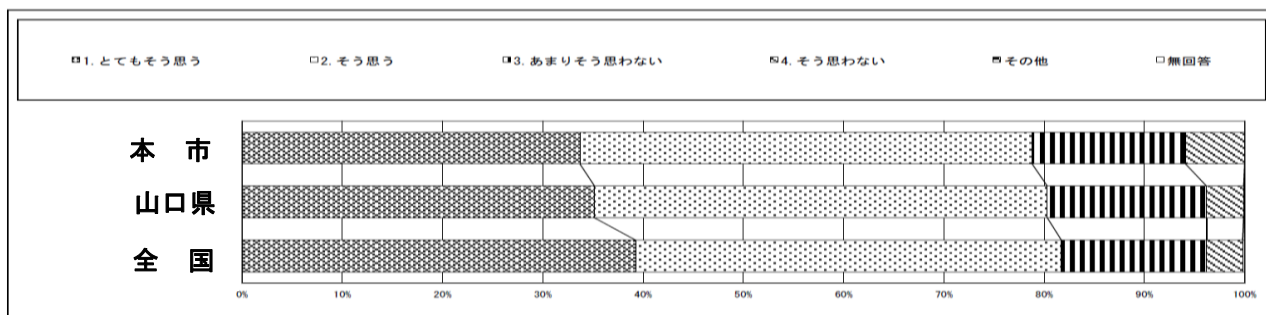


●ICTの活用及びICT機器に対する意識について

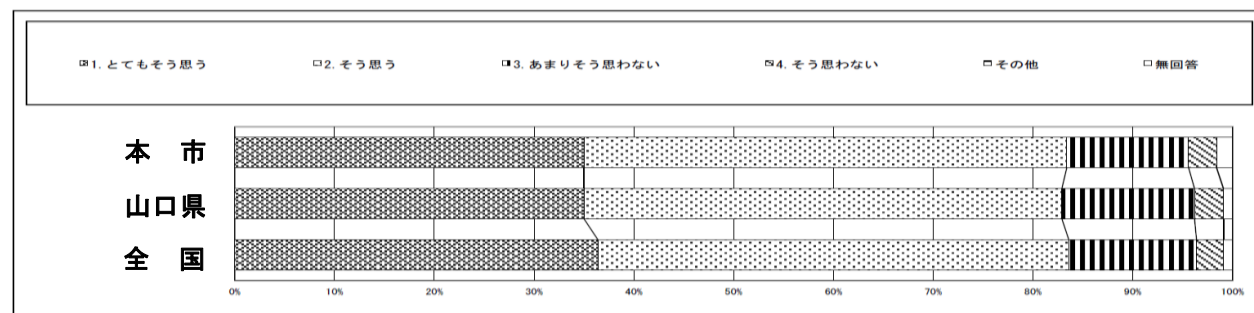
PC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思う子どもの割合は、小学生が県や全国よりもやや低い。

質問：あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。

【小学校】

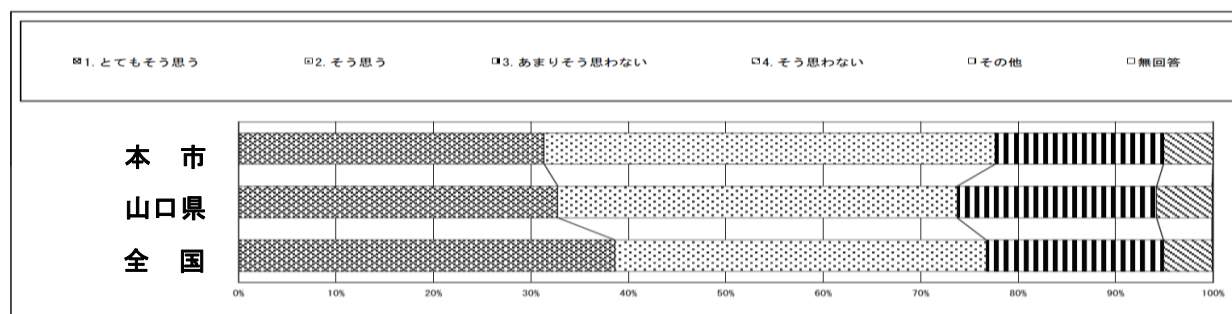


【中学校】

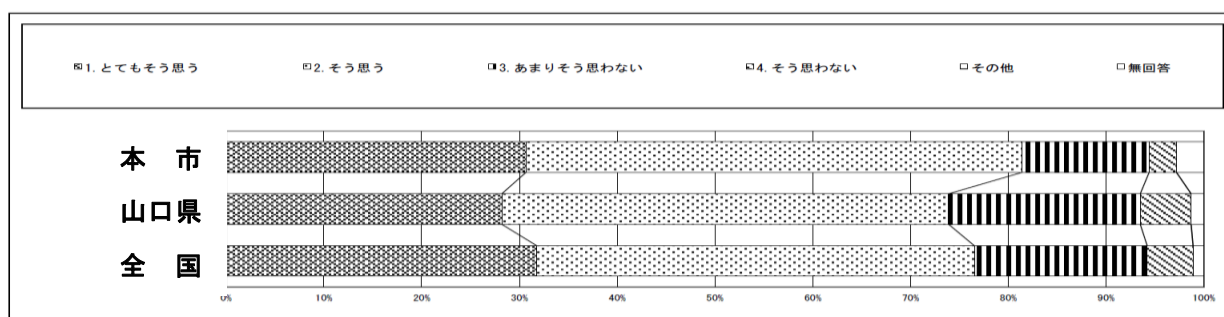


質問：あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。

【小学校】



【中学校】

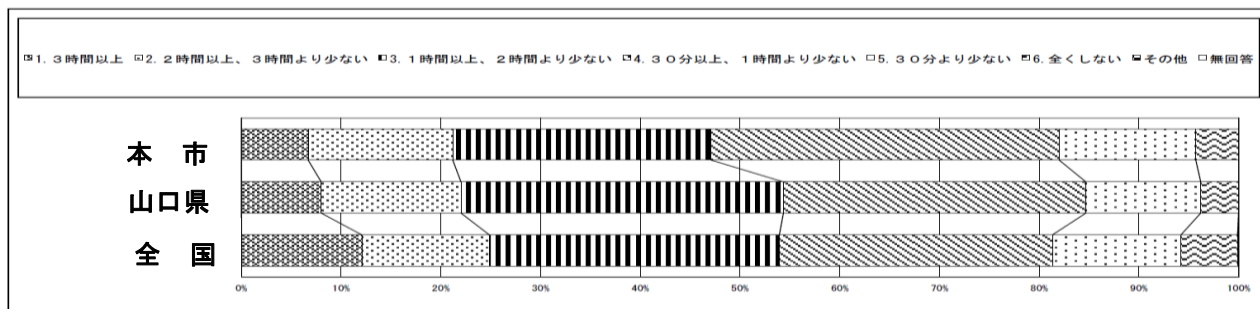


●家庭学習について

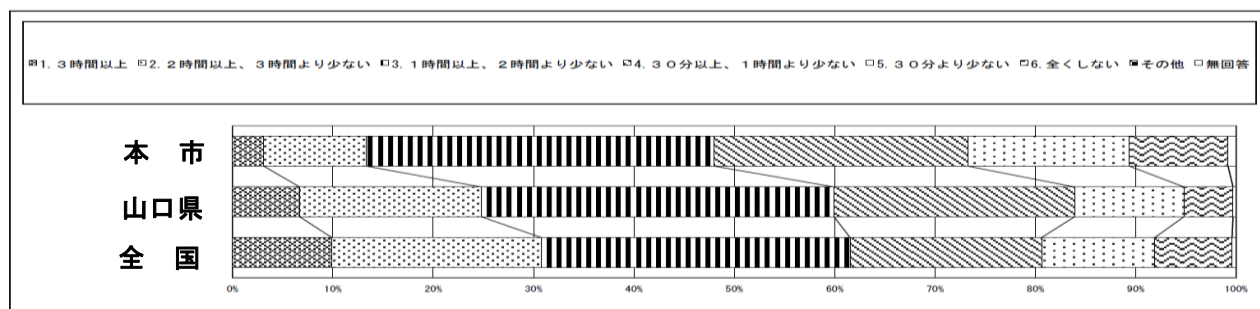
平日や土日の家庭学習の時間が30分以上、1時間より少ない子どもの割合は、小・中学生ともに県や全国よりも高い。

質問：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

【小学校】

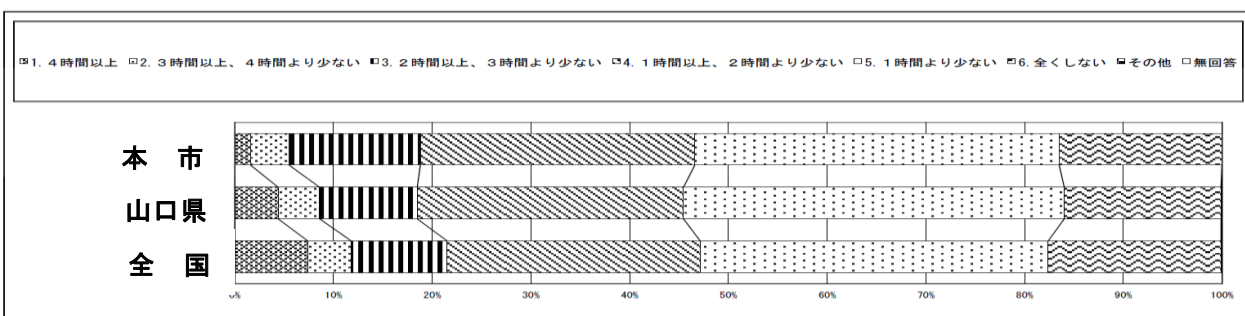


【中学校】

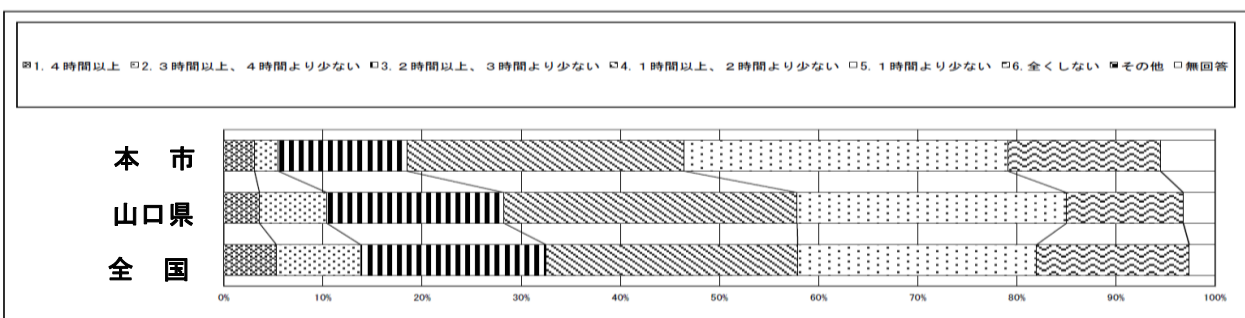


質問：土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

【小学校】



【中学校】



4 今後の重点取組事項

(1) 学校全体での組織的な取組・体制の充実

「分からない」をそのままにしないしくみづくり

- 補充学習の内容の工夫や学び直しの時間の設定により、児童生徒の「分からない」をそのままにしないしくみをつくる。
- 地域と連携し、校内の分掌組織全体が「学力向上についての検証・改善」という視点から協働できる体制をつくる。

【指標とする質問】

- ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。
(目標値：〈小〉当てはまる56.1% ➡目標 当てはまる70.0%
〈中〉当てはまる40.2% ➡目標 当てはまる70.0%)

(2) 教員の授業力の向上

言語活動の充実を軸とした授業づくり

- 全国学力学習状況調査等の正答だけでなく、誤答の記述や解答類型を分析することにより各クラスや児童生徒一人ひとりの課題を焦点化し、授業等で具体的に指導する。
- 日々の授業で次のことに留意する。
 - ・児童生徒に引き出したい振り返りを意識した授業づくりをする。振り返る活動を通して児童生徒の学びや定着状況を確認する。〈指導内容の確認〉
 - ・教科の基礎・基本の内容を活用して、自分の言葉で考えをまとめ、表現したり、出し合った意見について練り合ったりする場を設定する。〈協働的な学び〉
 - ・つまずきのある児童生徒への支援を徹底する。〈個に応じた支援の徹底〉
 - ・児童生徒が課題に応じて、自分で学び方を選択できるような場面を設定する。
〈個別最適な学び〉
- ICT機器を日々の授業の中で効果的に活用した学習活動を行うことにより、ICTを用いて自分の考えを相手に伝える力を育成する。

【指標とする質問】

- ・あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができますと思いますか。
(目標値：〈小〉当てはまる31.4% ➡「当てはまる」を増加させる
〈中〉当てはまる30.7% ➡「当てはまる」を増加させる)

(3) 中学校区の小中学校間・家庭・地域との連携

コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の充実

【めざす青少年の姿】（「萩市ひとづくり推進計画」より）

- ふるさとに誇りと愛着をもつ青少年の育成
- 高い志と進取の気概をもつ青少年の育成
- 人や社会と積極的に関わる青少年の育成

- ① 地域の課題に向き合い、社会や地域の一員として何をなすべきかを考える学習活動や学校やふるさとの良さについて語る活動を意図的・計画的に仕組み、「学校・地域連携カリキュラム」に位置付けた成果を検証する。

【指標とする質問】

- ・ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
（目標値：〈小〉当てはまる33.7% → 「当てはまる」を増加させる
〈中〉当てはまる22.0% → 「当てはまる」を増加させる
- ・ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- ・ 将来の夢や目標をもっていますか。

- ② 望ましい学習習慣やよりよい生活習慣の定着について、家庭・地域や関係機関と連携して取組の改善を図る。

【指標とする質問】

- ・ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか。
（目標値：〈小〉できている35.7% → 「できている」を増加させる
〈中〉できている29.1% → 「できている」を増加させる
- ・ 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

(4) 市教委としての取組

学校の力を引き出すための関わりや支援の充実

- 年間2回実施する市教委主催の「学力向上担当者会議」において、萩市の課題やめざす姿を共有するとともに、学力向上に向けた取組の実践事例について学び、各学校の実態に合わせた全校体制での学力向上のしくみづくりを伴走支援する。
- 「萩市の学力向上に向けて」を基盤として、英語学習指導員、ICTを活用した授業改善指導員、および学力向上担当教員の定期的な情報交換や、担当指導主事による各学校への指導助言を通して、授業改善を推進するとともに校内研修を更に充実させる方法を一緒に考える。
- 学校運営協議会で、「学校・地域連携カリキュラム」における児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、熟議等を通して子どもたちの学習意欲を引き出し、自発的な家庭学習につながる校種間連携力、家庭・地域との連携力の強化に努める。
- 児童生徒の一人一台端末を有効に活用するため、ICTを活用した家庭学習の仕方や手立てについての支援や各学校への指導助言を行う。